

第3回 今治市総合計画審議会 会議録

1 日 時 令和7年5月23日（金）14時00分～16時00分

2 会 場 今治市役所第2別館11階 特別会議室1・2号

3 内 容

1 開 会

2 議 事

（1）今治市総合計画基本構想の概要について

（2）今後の開催予定について

3 閉 会

4 出席者 <委 員>（順不同、敬称は省略）

菊川 堅吾 増田 茂樹 黒田 周子

長野 和幸 松村 暢彦 津村 侑子

神林 康弘 村上 浩一 渡部 浩忠

原 竜也 西原孝太郎 藤倉 晶子

※欠席者7名

<事務局>

総合政策部

部長 富田 義勝

企画政策局長 波頭 健

市民が真ん中課

課長 中田 匡亮 課長補佐 尾崎 大輔

政策調整推進官 森 聖二 係長 重松 辰弥

主査 安部 昂大

（委託業者）有限責任監査法人トーマツ 大阪事務所

玉井 智文、三原 佑真

第3回今治市総合計画審議会 会議録 ※内容1については省略

事 務 局	(議事1の内容のうち、将来都市像について説明)
会 長	ご説明いただいたとおり、将来都市像は「瀬戸内しまなみから世界へ 夢が行き交うまち IMABARI～みんなのふるさと、つむぐ未来～」となっている。この将来都市像は、参考資料1 将来都市像の検討状況について記載があるように、アンケート調査、今治みらい会議、今治市民提言会議、若手職員WG結果、市長ヒアリング結果、第2回審議会でのご意見を踏まえて作成したものである。本日の審議会の主要な議題になるため、委員の皆様から意見をいただきたい。
委 員	今治市の目指す姿の、「夢が行き交うまち IMABARI」について、今治をIMABARI とアルファベット表記しているのは、今回が初めての取り組みか。どのような意図があるのかお伺いしたい。
事 務 局	今治市は今後の国際化を踏まえて、産業や教育の面においても世界を意識し、今治市を世界に発信していく思いを込めたものとなっている。アルファベット表記とすることで、外国の方でもなじめる表記となっている。 総合計画において、今治をIMABARI とアルファベット表記にしたのは今回が初めてである。他方で、前回の総合計画を10年前に策定してから、佐藤可士和氏を中心に i. i. imabari! のフレーズを作成していただき、市にも i. i. imabari! 推進課を設置しながら、今治のアルファベット表記であるIMABARI を推進し、今治市をPRしてきた経緯がある。
委 員	i. i. imabari! は「I'm Into」を意味していると思うが、この言い回しの場合、市外部の人のみが今治市に興味があるという意味に考えられるが、どのような意味なのか。
委 員	I'm Into は「夢中になっている」の意味であり、今治市民の方も含めて、今治市に夢中になるという意味である。
委 員	全米で一番住みたいまちとなっている、オレゴン州のポートランドでは、Keep Portland Weird/ずっと変わりものでいようが大きなスローガンとなっている。「瀬戸内しまなみから世界へ」や「夢が行き交うまち IMABARI」のフレーズは、何処でも使われているようなフレーズで退屈だと考える。「うきうき今治」や「ドキドキ今治」のようなフレーズの方が、より个性的で良いのではないか。

事 務 局	今回作成した将来像のうち、「瀬戸内しまなみ」は今治市独自のフレーズであり、「夢が行き交うまち」は港に船が行き交う姿をイメージしたフレーズとなっており、「みんなのふるさとつむぐ未来」の「つむぐ」は、今治タオルをイメージしている。これらのことから、今回のフレーズを総合的にみると、現在の今治市のエッセンスが詰め込まれていると考えている。
委 員	今治市民の思いが詰め込まれていることは理解したが、市外部からみたときによりわかりやすく、記憶に残りやすい特徴のあるフレーズが良いのではないか。
事 務 局	今回のフレーズに決めるまでに、数十個のフレーズを考え、尖ったフレーズも考えた。フレーズを考える中で、尖ったフレーズは政策に繋がらないと考え、今回のフレーズに決定した。政策に繋げるフレーズとするために、言葉選びに気を付けた。
会 長	大阪府茨木市の都市計画マスタープランの支援をした際に、キャッチフレーズを考えるために、市民の皆さまから意見を公募した。市民の皆さまの力を借りて市の課題を解決するという意味で「人力（ジンリキ）タウン茨木」と尖ったフレーズを作成したが、あまり普及しなかった。普及しなかった原因は、市役所内で各事業と将来都市像のフレーズが繋がらなかったことである。次の都市計画マスタープランではより丸く、より行政として使用しやすいフレーズとなっていた。委員のおっしゃるように、どこにでもあるフレーズだと思われないためにも、今回の将来都市像のフレーズにおいて、どのような今治市の心意気が詰まっているのかを説明する記載が必要であると感じた。 ＜第4章＞施策体系でも記載があるとおり、将来都市像の下に4つの柱があり、各柱に各部署の基本目標が連なっているツリー構造になっている。各部署の基本目標からのボトムアップでツリー構造をみても、「瀬戸内しまなみから世界へ 夢が行き交うまち IMABARI～みんなのふるさと、つむぐ未来～」のフレーズが良いというのが事務局の考えである。 暫定的に現時点で事務局に作成いただいている将来都市像のフレーズに設定したうえで、今後総合計画の具体の策定を進める中で、フレーズを変える必要性が生じれば、その時に再び議論することとすればよいとも考えているがいかがか。
委 員	将来都市像は全体的に網羅した内容とし、各施策大綱や基本計画で尖ったキーワードが必要となれば加えていく方向性が良いのではないか。

会	長	おっしゃるとおり、施策大綱でサブタイトル等、キャッチーなキーワードを追加するのも良いだろう。 将来都市像のフレーズは、「瀬戸内しまなみから世界へ 夢が行き交うまち IMABARI～みんなのふるさと、つむぐ未来～」で承認とする。
事務局		(議事 1 の内容のうち、基本構想の概要について説明)
委員		今治らしさが総合計画策定のコンセプトであると考えるが、＜第 2 章＞総合計画策定の背景の【市の強み】に、記載のあるキーワード以外に、新しいものを取り入れていく風土を強みとして謳っても良いのではないかと。
事務局		タオルや造船のような、既に市民の皆さんに周知されている強み以外にも、強みを掘り起こし、強みを掛け合わせることで全国、世界と勝負できる強みになると考える。記載している強み以外にも、取り入れられるものがあれば記載していく。 村上海賊が神出鬼没だったことが現在の海運業に繋がったように、元来、新しいものを先取りしてきたことが今の今治市の海運業や造船の発展に繋がっている。委員がおっしゃられたように、新しいものを取り入れていく風土が強みであるということを貴重な意見として、計画に反映することを検討する。
会	長	イラストやデザインはどのようなイメージなのか。
事務局		本日お見せしている資料は素案であるため、精緻なイラストは今後検討していく。
会	長	大阪府大阪市西淀川区にあおぞら財団という NPO 法人がある。あおぞら財団は公害患者の賠償金で作られた財団であり、環境問題に関心を持っている。西淀川区ビジョンでは、20 年後の西淀川区のイメージをイラストにしている。そのイラストでは、施策大綱に記載されているフレーズに沿って、西淀川区で小さな子どもが楽しんでいる風景等が盛り込まれている。施策内容に沿って、「ウォーリーを探せ」のように、20 年後市民一人一人が西淀川区でどのように暮らしているのかをイラスト内に細かく書き込んでいる。そのアイデアを再生可能エネルギービジョンの策定時に活用した。様々な環境配慮の活動取り組みをイラストに記載した。現在そのイラストは地元の小学校の教材になっている。この事例のように、イラストそのものを活用していくやり方がある。 行政文書を概要版としてパンフレットのように作成すると、他の用途に活

		用できないため市民に普及しない傾向が強い。イラストのように、小学校の教材等の他の用途にも活用できるように、概要版を作るのも良いのではないか。市民が概要版を見た時に、一目で今治市はこんな楽しいまちになるのかと印象を抱いてもらえたら良い。
委 員	員	他自治体の概要版を拝見すると、いずれも色使い等、似た構成になっていると考える。今治市のブランドカラーを形成していくために、i.i.imabari!のロゴマークで使用されている色を取り入れるなど、デザインを工夫するのも良い。
会 長	長	本日は将来都市像と計画の構成を決めているが、今後、各部署の事業を決めていく。計画に先進性をどのように反映させていくのかを、基本目標や施策を決める際に議論できれば良い。基本目標に、観光を記載せずに、シティプロモーションの一部としている意図はあるか。
事 務 局	局	基本目標ではシティプロモーションに観光を含んでいる。おっしゃるとおり、観光というワードをより全面的に押し出すために、変更するのも一案である。
会 長	長	観光を全面的に押し出す記載をしていないのはむしろ良い案だと考える。観光目的の人だけが今治市に訪れるのではなく、様々な人に今治市を訪れていただきたい。そのため、シティプロモーションが基本目標にあるのが良いと考える。
委 員	員	基本目標の文化・生涯学習の推進について、子どもだけでなく、大人の学び直し、例えば愛媛大学が造船の技術者を養成する等も含まれていると考える。それらは、基本目標の商工業の振興等にも関連するので、各基本目標が循環して繋がっている記載にしてほしい。
会 長	長	縦割りになるのではなく、各施策、基本目標が繋がる記載にしてほしい。
委 員	員	島と中心部で課題も地域の実情も異なると考える。概要版のボリューム上、致し方ない部分もあるが、各地域一律に同様の施策を実行するのは難しいのではないか。どのように各地域の実情に合わせて、書きぶりを変えるのか。または、概要版では市全体の視点で記載をし、各地域個別で記載が必要な箇所は、別途記載していく想定などがあるのか。
事 務 局	局	本日提示している基本計画は、市全体を統括したものになる。各地域の特

		色を反映させることを念頭に置き作成はしている。一方で、個別の政策に反映させていく際に、実施計画へ反映する。基本計画では、子育て等各分野の市全体の指標を示す。実施計画で、各地域の実情に沿ったより深い内容を記載する。
委 員		各地域で特色や文化も異なるため、各地域の強みを活かすためにどのような言葉を基本計画に記載するべきか考えていた。各地域の今治市の強みや気持ちを汲んだ言葉が盛り込まれてほしい。今治だからこそできる教育等、今治らしさが含まれてほしい。
事 務 局		参考資料２の総合計画素案をみていただくと、地理的な条件や歴史的な経緯を記載している。それらをベースに、皆で１０年後の今治市を作ろうというのが、今回の今治市の基本構想になる。当然、各地域の地理的な条件や歴史的背景などのエッセンスは含めていく。より詳しい作業については、実施計画に入れ、皆さまが目指す姿を反映させていく。
会 長		地域と人、ともにないがしろにされないように、基本構想でも確認してほしい。言葉だけでは想像しづらいと考えるので、イラストで全ての市民がいきいきと生活している姿があれば良い。
委 員		４つ施策の大綱があるが、「夢やふるさとへの誇りを持ち、市民が主役のまちづくり」と「安全・安心して快適に暮らせるまちづくり」とともに、環境に関する記載がある。市役所目線で、別に分けて記載しているのか。環境は全ての施策、風土作りの土台になる。４つの施策大綱の横断的な軸として、環境を置いても良いのではないか。市民から見ると、市役所の各課別で、環境への対応が分かれているようにみえるのではないか。
事 務 局		４つの施策大綱を、市役所の各課で縦割りしてはならず、複数の課がまたがっている。みやすさのため、横断的目標は記載していない。DXや環境等、各課横断的になるものは、異なる記載の仕方に加えることを検討している。
会 長		網羅的な項目を設けると、それ以外の項目は各課横断しなくて良いのかともなる。そうではなく、多くの項目において、各課横断的に対応する必要があると考える。庁内で、各施策の横断的視点を共有してほしい。 次回は基本目標等の具体的な議論になるため、楽しみにしている。 では続いて、議事（２）今後の開催予定についてご報告いただきたい。
事 務 局		（議事２の内容について説明）

会	長 全体を通して意見あるか。追加での意見がないため、これをもって本日の審議会を終了する。
---	---